

03

GHG削減の要因

GHG削減の要因

Point 01

地場堆肥活用



隣の「いしかわ地区」は畜産が盛んな地域。地場の良質な堆肥を活用し、従来から土づくりに励んでいました。

- ・堆肥活用
- ・化成肥料の使用削減

Point 02

土壌分析



JA全農福島の農業技術センターにて、定期的な土壌分析を実施。養分過剰な圃場が多いことを捉え、減肥対応の肥料を導入していました。

- ・適正施肥

Point 03

施肥診断



中堅営農指導員を集め、施肥診断の勉強会を実施。分析結果から施肥の改善指導ができる人材育成に力を入れています。

- ・施肥改善提案
- ・営農指導員人材育成

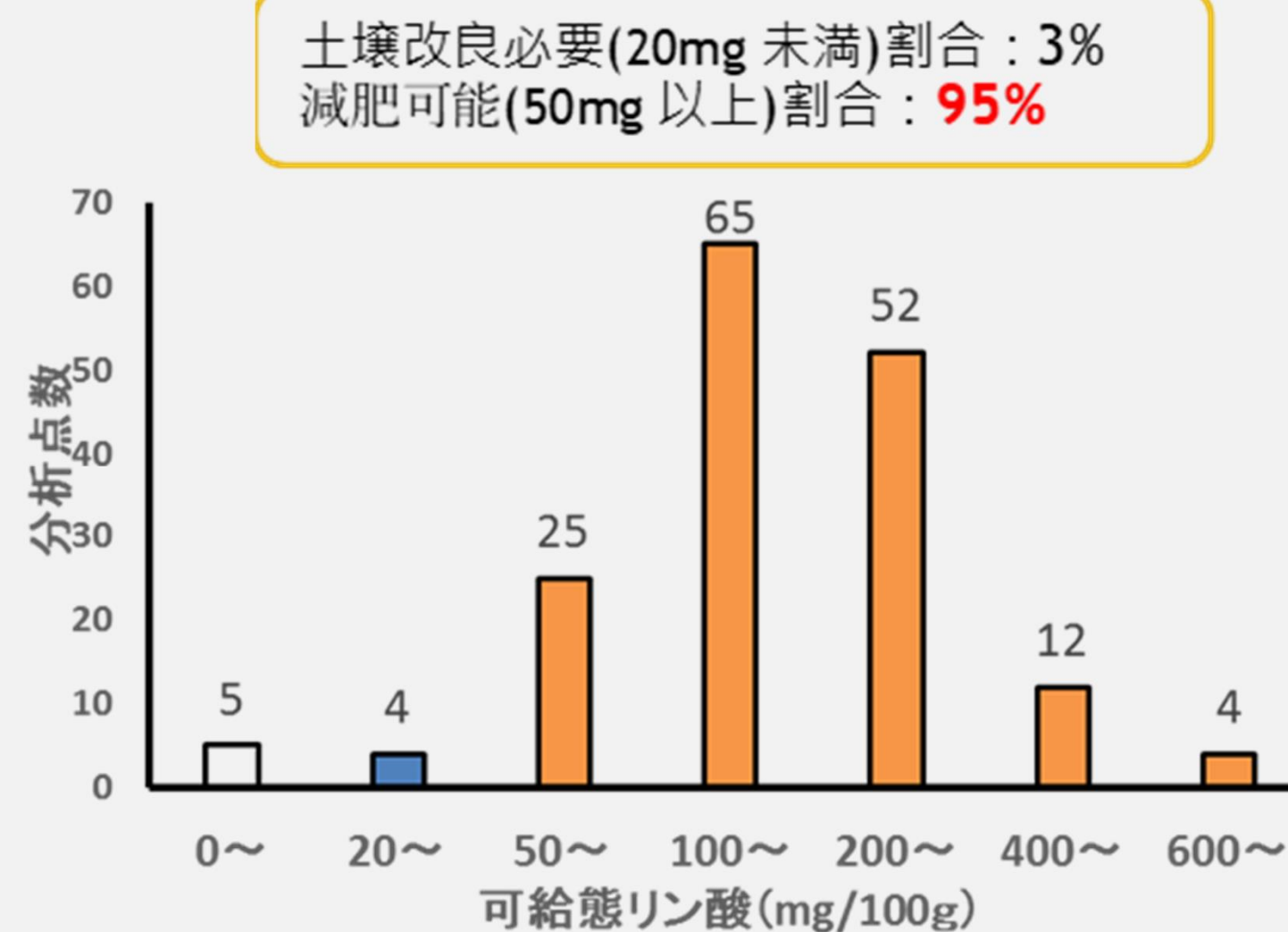
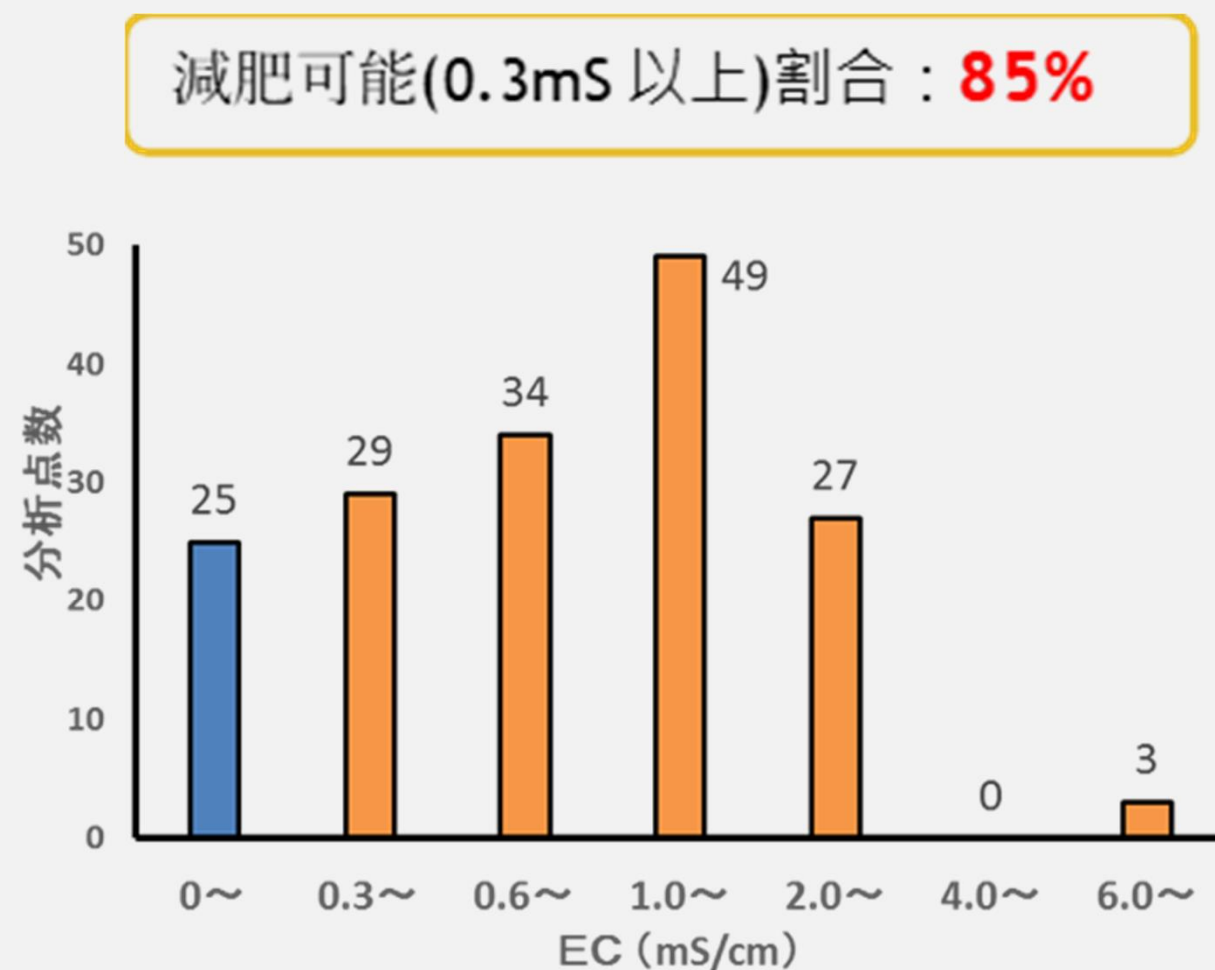
04

今後の取組みと課題

今後の取組み（１）

まだまだ養分過剰傾向が続いておりますので、更なる改善指導に取り組んでいきます。

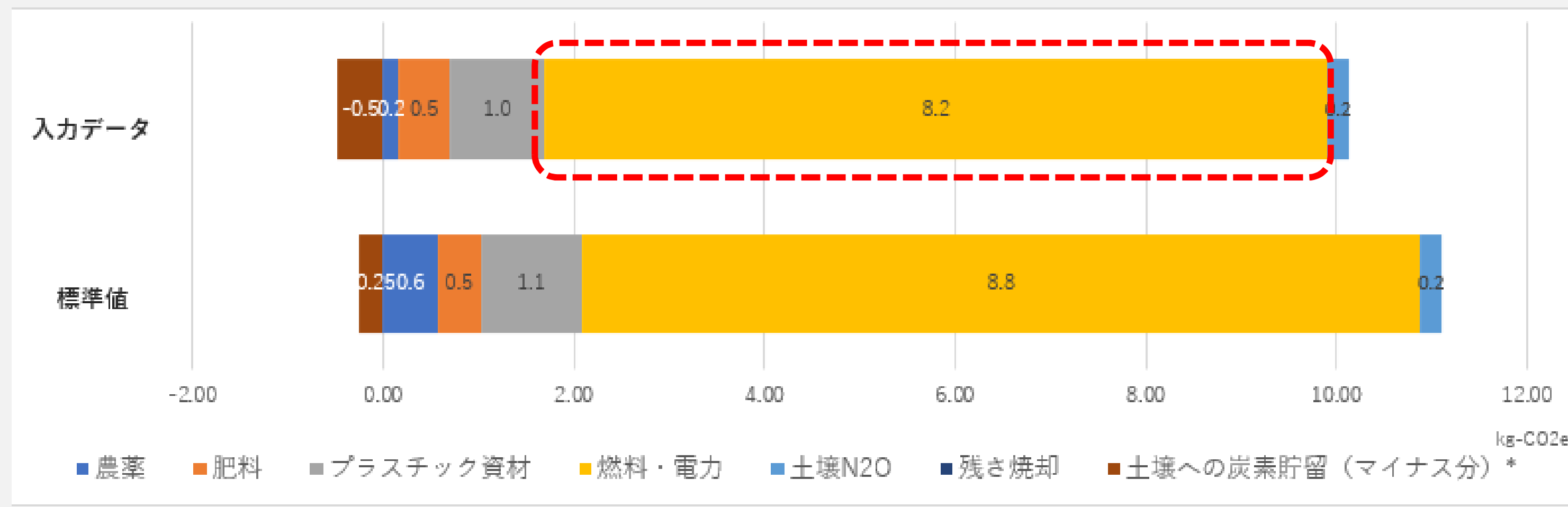
※令和5年度 JA夢みなみしらかわ地区トマト栽培土壌 167点の分析結果（分析実施：JA全農福島農業技術センター）



今後の取組み（２）

ウェイトの高い燃料・電力の算定を行い、削減案を策定します。

※令和6年度は登録までの時間がタイトであったため、燃料・電力のほとんどの項目で基準値を使用。



issue
課題

01

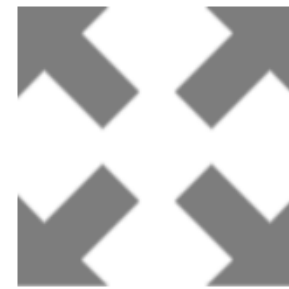


実需者マッチング

慣行品との差別化販売を行って
頂ける実需者が少ない。

- ・見える化の知名度向上
- ・マッチング

02



周年供給

現在、登録を取得できた作物は
トマトのみ。

- ・周年供給を目指した作物への
取組（作型拡大、他作物での
登録取得）

03

【農水へのお願い】



対象品目拡充 算定のシステム化

見える化対象品目の拡充。

Web上で算定・登録審査が完結
できるシステムの構築。
(算定・登録作業軽減、時短)



ご清聴頂きありがとうございました。